



お子さんの“言葉づかい”で悩んでいませんか？

お子さんの“言葉づかい”で悩んでいるお父さん、お母さんが増えているようです。

例えば街を歩いている時、前にカートを引いたお年寄りがいったりすると、「じゃまなババアだな〜」と口に出したり、何かのはずみで「ざけんなよ〜」「やってられねーよ」「まじかよ〜」などの言葉が子どもの口から出るそうです。そして、言葉づかいが悪くなると“行動まで悪くなってしまう”ということもあるでしょう。

とくに男の子は自分の事を「俺」と言いたがるように、不良っぽい言い方にあこが憧れるところもあります。そして、そんな言い方をすると、物の考え方まで不良っぽくなっていきたりするのです。

その他にも、クラスメイトの女の子に「ブス」とか「デブ」と言って泣かせる…といったようなトラブルも男の子の場合はよくありますが、こういったクラスメイトへの暴言は“いじめ”の問題にもつながりかねませんので、いじめに進行する前にきちんと軌道修正きどうしゅうせいを図っておくべきでしょう。

大人から見れば「ひどい」と思える言葉でも、今の子ども感覚では当たり前になってしまっているところがあります。ですから、「ダメよ」とただ単に叱るだけではなく、“なぜダメなのかをきちんと分らせることが大切”です。

また、お年寄りへの暴言は、身近に自分のことを可愛がってくれるお年寄りがいらないから出てくるのかもしれませんが、でも、祖父母と同居しているのにも関わらずお年寄りに対して暴言が出るのであれば、なおさら問題です。そういった場合は、まずお父さんやお母さんが、日頃から自分たちの両親を大切にしている気持ちをお子さんにしっかり伝えることが大切でしょう。



また、クラスメイトへの暴言も、自分がその言葉の意味や善悪ぜんあくを深く理解していないからこそ口に出てくるのではないのでしょうか。ですから、「『ブス』『デブ』と言われた子はどんな気持ちになると思う…?」「もし、あなた自身が『チビ』と言われたらどう…?」というふうにお子さんに話してみてもいいのではないでしょうか。何事も「身につまされる」という経験が勉強になるはずですよ。

言葉づかいが悪いと行動が悪くなってしまうように、「正しい生活マナー」は「正しい言葉づかい」を実践していくところから始まっていくのではないのでしょうか。

